

会 議 録

1 会議名

平成27年度 第5回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 地域活動支援事業審査・採択の基本的なルール、募集要項等について（公開）

(2) 公の施設使用料の減免制度の見直しについて（公開）

(3) 意見交換（公開）

在任期間の振り返り

3 開催日時

平成28年3月10日（木） 午後6時29分から午後7時38分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：横田直幸（会長）、水澤俊彦（副会長）、有坂正平、植木泰行、小林春男、
鈴木 孝、高島信雄、橋本 勲、前川正治、宮下浩二、八木文夫、
横田晃一

・事務局：南部まちづくりセンター 橋本センター長、榎島係長、小林主事

8 発言の内容

【榎島係長】

- ・12名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は横田会長が務めることを報告

【横田会長】

- ・会議の開会を宣言

- ・会議録の確認：植木委員に依頼
- ・次第2「議題等の確認について」事務局に説明を求める。

【橋本センター長】

資料により説明

【横田会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

続いて報告(1)「地域活動支援事業審査採択の基本的なルール、募集要項等について」事務局に説明を求める。

【榎島係長】

資料No.1、2、3により説明

【横田会長】

質疑を求めるがなし。

続いて、報告(2)「公の施設使用料の減免制度の見直しについて」事務局に説明を求める。

【榎島係長】

資料No.4により説明

【横田会長】

質疑を求める。

【小林委員】

結果的に、減免の対象は増えたということか。

【橋本センター長】

結果としてどうかは、資料がなく分からない。

基本的な考えとして、受益者が負担するという原則がある。減免に関しては、例外的な措置である。今回対象団体に関して整理をした。対象となる団体には事前に登録を依頼し、減免についてはある意味、機械的に行うような形に整理をした。また町内会や子ども会などは、事前登録をしなくともよいとした。

増えたかどうかは資料がないが、要は整理をされたということである。

【横田会長】

小林委員に質疑を求める。

【小林委員】

先日施設の利用料金を見直した一方で減免対象が増えたとすると、利用料金を値上げした目的と相反するようだが。

【横田会長】

行政の理論と市民の感覚との関係があると思う。それも含め事務局より説明をお願いする。

【橋本センター長】

今まで、減免の範囲が広がったものを今回整理した。担当者の説明では、今回の見直しでは全体として500万円程度の増収となるという。基本的には負担軽減というよりも、応分の負担をしてもらうという考えである。

【横田会長】

続いて、次第4「意見交換」に入る。

我々は4月28日で4年間の任期を終える。今回は最後の協議会である。和田区としては、新幹線の開業という節目があり、またきめ細かい内容について相談をし、視察など和田区なりの活動を行った。4年間の振り返りをお願いする。

【水澤副会長】

2月末に活動報告会が行われ、町内会長からの声かけもあったと思うが、協議会に対しての関心を感じた。

私は当初の3年と今期の4年を委員として活動し、秋山三枝子元副会長の後継として副会長を務めた。あっという間に過ぎた感じである。

4年間に新幹線の開業があり、その中で変化する和田区の課題も提起された。自分自身としてはいろいろな思いはあるが、地域協議会として新駅が開業する前にやれることがあったのではと心残りの部分がある。もうすぐ開業後1年になるが、問題点や今後のことについて、孫・子のために考えられる人たちによる地域協議会であればと思う。地域を愛するメンバーで考えていくのであれば、地域も素晴らしいものになる。

振り返れば、メンバーとの研修もあった。また大和倶楽部との懇談会で若い方が

いるということに気づき、PTA関係者との話し合いで世代、年代の違いを感じた。

年功者から若い人達への助言で、若い人達が安心安全に住んでもらえるかどうかも大切である。和田地区は三世代の世帯が多い。今後地域が変わる中で、住みやすい地域にしていければと考えている。

いろいろな方との出会いや意見交換ができたことに感謝する。

【有坂委員】

委員募集のパンフレットの「どのような人が委員になったらいいのか」の中に、自分の利益ではなく地域の利益を考える人、地域のために頑張る人、建設的なものの考え方ができる人、住民目線でものを考えることができる人、とある。私はかろうじて一つ目ぐらいはなんとかできているが、他の部分からは外れているのではと思う。

4年間、夜の会議は出席できたが、日中の行事へは、仕事の関係で半分以下くらいしか出られなかったことを申し訳なく思っている。

地域づくりについて、この協議会で考える時間もあつたが、地域づくりは難しいというのが率直な感想。地域活動支援事業の採択はそれほど負担ではなかったが、その他の地域の活性化、まちづくりを考えるときには知識不足を感じた。それをカバーするために事前送付された資料にも、あまり目を通せずに参加していた気がする。

地域の活性化というと、地域活動支援事業に代表されるようなイベントの話になるが、そのような知識がないため、それを除いた活動は負担だった。

上越市という名は無機質で面白味がない。イベント名に上越と付くと心が躍らない。新幹線新駅に妙高という名がついて温かみを感じるようになったのは良かったと思う。決定方法については反発もあるが、結果としては良かった。

和田の人々が気持ちよく過ごせるという発想の地域づくりが必要である。

【植木委員】

高田の町なか出身で、現在住んでいる町内の周りしか目が届かず、また長年会社勤めで和田地区全体がよく見えていなかった。委員として4年間勉強させてもらった。

4年間の中で、地域活動支援事業の提案の大部分が新幹線関係であった。開業して1年経過し、和田全体の活性化に向けた地域協議会の位置づけ、また新幹線関係から外れた事業提案が具体的にどうなって出てくるか、分からない部分もかなりある。

4年間はあっという間に過ぎた。提案への審査・採点に関しては、個人レベルの感覚で公共性に照らしてやってきたつもりである。ただ、まちおこしへの関わりについては反省している。考えてきたことと、やってきたこと、それとやらなくてはいけない部分にずれがあり調整もできない。会議では個人の意見を発表する機会があったが、声に出して言えない4年間だったことを反省している。

【小林委員】

大和倶楽部、PTAとの懇談会を通して、和田地区の活性化やまちづくりについての話合いができたのはよかった。今後も続けてほしい。

地域活動支援事業の応募数が非常に少ないのは、リーダー的な人が少ないためと思う。みなさんの考えをまとめて形にすることができないのはリーダーがいなかったためだ。リーダーの育成が課題として残ったのかと思う。

【鈴木委員】

和田地区のよいところ、よいものを探し出し発信していくという意味で、今後とも自主的審議事項を提案するのがよいと思う。各委員が4年間に1件提案していく気持ちになれば、和田地区からの発信も広がり、委員としての存在感も増すのではないかと感じる。今後もそのような方向でいくことを希望する。

【高島委員】

最初は何から取り組むのかと思ったが、街灯のLED化が4年間で地域協議会の存在感を示したものとして記憶に残っている。これまでの予算消化のための一過性のものではなく、今後はそのような事業が多く出くると良い。

4年間は皆さんに迷惑をかけ、時間を無駄に過ごしたかと思う。今後は活動的で、盛り上げていく人が集まる場になることを希望する。現在、次期委員への応募がないということであるが、今後声かけをして若く活動的な人の参加により雰囲気をしでもよくしてほしい。うちの町内ではイベントなどを企画したり、アイデアを持

っている人もいます。そういう人達からも参加してもらい、地域協議会が盛り上がる場になるようにしていきたい。

限られた予算である。これが地区全体に花を咲かせるように取り組んでいきたい。

【橋本委員】

地域協議会に参加する前に、地域の活性化に貢献しなければいけないと多くの方から言われた。考えてみると自分自身が地域について知らない部分が多く、ベテラン委員の方々からいろいろ教えてもらった。

地元の団体との交流は印象深く、多くのことを教えられ、今後も継続すれば勉強になる。他地区への研修や視察も印象に残り、勉強になった。ただ、それを地域のために生かせず反省している。

4年間を思うと、地域を活性化するより、自分自身をもう少し活性化しないと、貢献はできないという反省をしている。消化不良であった印象である。

【前川委員】

4年間は最初長いと感じたが、あっという間に終わった。最初の2年までは、皆さんの話を聞きながら資料を見ることの繰り返しで、本当の役割を果たせなかったのではないかと反省している。後半になって意見交換の感じをつかみ、今に至っている。

いろいろな方の意見の中から、いろいろ教えてもらい、地域活性化に役立つ勉強の場にもなった。和田地区の課題解決や活力の向上に若い人が求められているが、我々には分からないものを教えてもらうためにも、先輩委員は必要と感じる。

町内会長を歴任された方は特に様々な意見や問題点を拾える立場である。私のように他の役割の中で問題解決することもできる。委員を一期や二期で止めるのではなく、やり残したことをやってほしいと思う。

私も和田地区の活性化のために頑張る気持ちはある。今までの経験を生かし、これからも地域のためにやりたいという気持ちで一杯である。

【宮下委員】

もう4年たったのかという気がする。協議会は自身のイメージと少し違っていた。この地域に必要であったのか疑問である。理由は、地域に溶け込んでいないこと、

立場的にも中途半端であり地元から理解されていないことである。地域の皆さんに聞いても、協議会を知っている人はいなかった。残念であるが、これが現実である。今後は地域に入っていく努力が必要である。地域に溶け込んだ協議会に成長してほしい。

【八木委員】

委員になった時、今までの協議会のあり方とこれからどうするかを考えた。先ず地域のことを知ることが一番、それと地域活性化について団体との意見交換が必要であると考えた。それで地域のいろいろな団体との意見交換を活発に行うことを提案し、それが任期中に実施でき、理解が得られたのだと思う。また委員が地域を知ろうということができたのではと思う。他地域での研修会や意見交換会については成果だと思う。この4年間、初めは疑問であったが、結果的には一歩も二歩も進歩した和田区協議会になれたと思う。

私は、新幹線の建設促進がひとつの大きな役目であったので、協議会に専念できなかったことは反省している。何れにしても若い人たちが多く出てくれることを期待している。

【横田晃一委員】

4年間が終わってみると、あっという間であった。いろいろと勉強になったが、地域協議会では何も出来ず申し訳なかった。協議会ではいろいろな話も聞け、また4年間にPTA会長を務めた中で、町内会長会や青少協などの様々な団体が地域や学校の運営に携わっていることを勉強した。地域づくりは難しいという点で、新しい組織、リーダーを作るのは難しいが、既存の組織の維持と活性化にももう少し力を入れてもいいのかと思う。昔からある組織や行事などで若い人が参加しないと、やめてしまおうという意見もあるが、そこで踏みとどまって若い人を集めようとしないと地域の繋がりがなくなってしまうのではないかと思った。

既存の団体が、組織維持のために使えるような資金についても考えてもよいかと思う。

【横田会長】

私は通算6年だった。

皆で寄りあい、円満に48回の会議が運営されたということに感謝を申し上げる。

これは町内会、和田地区振興協議会からの理解や支援の結果だと思う。それは今の皆さんの振り返りにより改めて強く認識した。

自主的審議事項は通算で3件であり、件数で見ると少ないが、本当に少ないかという、市へ上げた自主的審議事項は少ないが、勉強会や自主的な意見が多く出てきている。これをストックとしてどう生かすかということが今後非常に重要になってくると同時に、それが次へ繋がるためのエネルギーになると思っている。単に市へ上げた審議事項で議論するだけではなくて、皆さんからの意見、議論などを記録として残しながら、使っていくということで、ずいぶん蓄積ができたのではと感じている。

地域協議会会長会議は毎回出席してきたが、委員のなり手がいないなどという愚痴が多く、それは会長の職を引き受けた姿としてはおかしいと思う。それに対して市は冷静に対処し運営してきた。和田地区はお互いによくやってきた。これからこそ地域協議会が本当に必要になり問われる時ではないか。

自主的審議事項が少ないことは、和田が良い所で良いものが一杯あることの結果であるのではないかと考えている。それをこれからどう使っていくかということについては、地域協議会が装置として重要な役割を担って行くだろう。これから地域ごとに差がついてくる、和田がそのような成果に立って行く場合、これから大事な所へ向かっていくと考える。

委員には感謝申し上げ、事務局にもお礼申し上げます。

水澤副会長へ発言を求める。

【水澤副会長】

本日が最後である。皆さんから貴重な意見をいただいた。良い思い出も作ることができ感謝している。

前川委員から心強い話があった。これからのために頑張っていくことができる方も多いと思う。ぜひ次期委員へ応募いただき、和田地区を皆で盛り上げていければと思う。

【横田会長】

会議の閉会を宣言するにあたり、他に質疑を求める。

【高島委員】

本日の文書報告で、公民館和田分館が和田地区公民館に名称変更となることを初めて知った。現在の公民館協力員も公民館主事と名称変更になるとのことであった。公民館の維持管理については今までどおり市が行うのか。

【横田会長】

そこは気がかりであった。

【橋本センター長】

今までと基本的に変わらない。組織体制の見直しである。高田地区公民館の分館であったものを、それぞれに地区公民館としての機能を持たせるもの。

【高島委員】

今まで市が指導して公民館活動をしてきたものを、今後はこの地区で自主的に取り組みなさいとなってくるのかと思った。

【橋本センター長】

後は和田地区公民館として企画をするということであり、全てを利用者に預けることではない。利用者にとって基本的には今までと変わらない。

【高島委員】

例えば和田分館にある味噌造りの道具については、市が管理していたのか。今後はこうした共同活動の機械は地域活動支援事業で整備できるのかということを考えて。

【橋本センター長】

基本的には市の施設としては全く変わらない。今の味噌造りの道具がどこで管理しているのか承知していないが、今まで市で持っていた設備はこれからも市で管理するということである。

【横田会長】

公民館については今までと同じという意味である。公民館の備品等については市の備品であるため、市の予算で管理するということも含め、今までと変わらないという理解でよいということである。それぞれの地域の皆さんにもそのように伝えて

いただきたい。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課
南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。